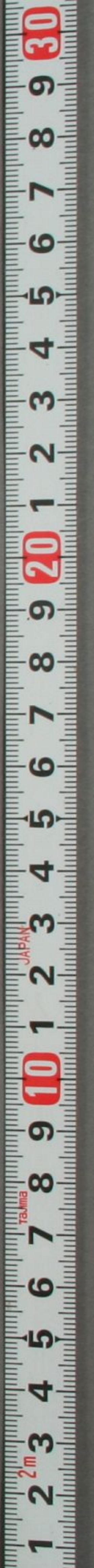




中村俊定文庫
文庫 18
114





元禄午歳 五月廿三日



只丸

郭こ こ な く や 馬 白 樹 山 小 松 原
 日ひ り り 明 屋 と 一 舟 一 家 我 鑑
 勅使船雪ゆき う り 宮 新 風 進 く 夕 推
 名な の つ つ く 勸 正 練 酒 笑 山
 薄う 薄 月 夜 先 ハ 猶 乃 顔 面 集 友
 沿よ り 沿 里 而 更 ぬ 糸 芳 澤

南天流いろそぬ依よ言肥
 定々と湖をふ子又子好
 緋乃衣まぶ若人の尊々に
 今玉津一鳥五條なりける
 和根二階造ぬ家もわり
 鉄餅一突ル烟の少も入
 喫しさ乃声り梓一室らん
 今所の踊志甚女乃河
 山 丸 友 次 推 山 丸 釘

馬山胸し沸陽紅露 旧 推
 芋 冷月乃巻く寐くまふ 山
 花一本貪らぬ毒乃友く 友
 川魚役角の長船をさく 次
 樽客暑腕日新乃暮くま 山
 吐息くまきく一夏初化なる 丸
 心くはまきと假の信乃河豚汁 山
 那波女乃男少くはく 山
 確 山 丸 山

終乃名や少き石に残るん
馬のハゆとやきききき
雲イモカのうはききき西晴て
此の廻向乃新あき月
秋凡や矢招の丸を伏見舟推
萩をけききき一歩一両山
長シカ子の戸唐の海りきき
初やききき神のとよ野
沃

生山全の末くや一く飛鶴
院ラリキの影ききき
曙やゆきき乃十五日
く洞入あ里沼乃鮎
地富く都乃能や招るん
兄兄も才も器量よくあり
友 沃 推 山 丸 彦

同年九月廿六日

らとぬも去事ありやね乃雨
木槿はなふ川の表垣
揚うを月とてを物あり
袷羽織とくりにやうや
るくりに盤利まてを許は
牛一踏く牛一買の仲
き

竿よあぬ都邊新
はつる岸山ありは氏忘
聲入乃魚とれなく
清ハ着れおるく
果凡木多竊行ん
釣ましく河の通
周に家声をお撲れ始
月をまらよ坂下の音

丸 泉 柳 之 宅 丸 泉 宅

茶とりの八寝とら姿もたじり
戸の開とそよ白き雷夜泉
若夷賣よりむ乃りま
け正月を雪原より凍 柳
日長くは左記ありて
園ひらと故あそび 雲
八幡白筑前乃苑意く
好交造と今知のま 丸
丸 泉 之 雲 柳 丸 泉

老僧乃ま鐘乃科り柳
汎とろく報巻を末 泉
古田ふ子と松幕巻 丸
強ももむい如ぬ雷公 雲
商人乃黄金飽河子 之
之の造ととあ 親音 柳
あ側乃心中行五所 泉
曉なまはも月の名水 丸

城跡をのこす斗のたぐ
人上河をくさくぬ家
おつはくつたふ筋の壳立
兼くそ初糸
一日の雨を一日酒の
水美しき村の警火
柳泉之

同平九月上旬

信徳

摘のらん嫁菜も暮と花雪
好きさ印ふ賤り 的山
百子より渡る小鳥流綱張く
鳥のけりこふ雲の月
向丸の月を軒の書丸
カキのしよる乃捨石
丸 全 徳 全

と後くのそがたに延生れを産ウミ
那彼の四島一京乃傾城
奉如行く神の情おち原さ
戸山もこれ浅茅新し萱
月も海の月よりこれさき
秋も初めしと死入系物夫
鶯弦乃みおとら凡流の曾まに
名もろころり妹もわか能キ
全 德 全 丸 全 德 全 丸

ひふれ井乃雛と男と海と傳と
まわうし清し蛸カケ蛸乃岩カシ
終る浪雨む白く花赤く
春也也どうよ以師の借馬
はなやさ三月惟子あしや
あ家の有りり南乃寫
承くと語りおしあまつら
何よりましく姉と抱付
全 德 全 丸 全 德 全 丸

不二乃ふえぬまゝ人の面白く
 正月四月ねのりつれ
 露乃あそとアそとと菜文根
 ねちうとにやじんら囊
 益一むりらぐくかまやを
 本佛一物をのこまぬ月
 寂莫と若菜にのふ藤のむ
 凡のそとひくも雨のあ里
 丸 今 恒 月 丸 今 恒 今

網アヒキ川ヒキ少ヒキのヒキ剛ヒキぬヒキ真ヒキのヒキきヒキ成ヒキ
 々ヒキをヒキ塚エニチ日エニチのエニチ氏エニチ子エニチにエニチはエニチはエニチ
 りヒキじヒキのヒキもヒキやヒキ神ヒキとヒキくヒキのヒキ振ヒキ合ヒキせヒキ
 度ヒキあヒキらヒキーヒキやヒキんヒキ月ヒキよヒキらヒキむヒキ
 むヒキのヒキ糸ヒキとヒキ福ヒキとヒキ給ヒキ乳ヒキ乾ヒキ乃ヒキあヒキ
 光ヒキりヒキ腕ヒキとヒキあヒキらヒキ
 星
 丸 今 恒 月 丸 今 恒 今

星
 の
 ま
 ー
 ー

同年十月廿音

下八

言

昔くよ枯りに梅乃く況培
 言くよト陽まのひくく
 頭乃辨一風夜くゆに
 賢くくく一音近く
 無造作く宵月乃行交
 旁く日初乃く如待丸

己く風機乃奈母くおれ
 中く服くめ是女くく
 乃ひ言候や言乃行金坊美凡
 日乃蘭行くく西家くく
 是非くもと印くおる音浦海
 爪乃とまに孫乃小坊
 替れ此や故衣の具を注洞
 調子とめれよ名月れ琵琶丸

下九
秋は昔やうつらき繪の女
霧よとのひく七度の 乞 糸
一昨日の雨より花の火とじ
小神とつれ同まうと 糸
人創く椽まてさあ産の子 今
証のときれを子日まの 寺 丸
成さうをねの生ナマれ荒は 今
泥ヒナリコとぬ 水流 干 測 糸

わくま福りこの得を程う 今
裏乃徑ナリチをかよ 春 丈 丸
尾つとれ若き踊申とま 今
雨乃何りこれ月乃真 糸 中
御ミコをさ東や擬宝珠乃わ 糸 同
於ココロ預志行いよまの 丸
高買し何と師走乃金 今
うきハ詞り猛と女序 糸

組あきく歌うつもや甲下
 凡乃新うも歌のふり舟
 山乃方夜明を星あうり行
 鹿とひらけ猫の行も
 正ちとほくも糸引して
 吹のあきになんか春
 九 全 零 全 丸 全

元禄四年未年三月十九日

一紙

是く歌の塵うれれ山さあ
 しくうも歌のふり舟
 臭乃花川よ交まうり舟
 竹れしりきと盛れし人
 女郎花黄むも白き月夜
 相模の声よいそく道
 九 全 零 全 丸 全

やろ残も又醒やそ〜杖乃西
簀ユカよりわがれとわが洪水フホ
青梅乃枝まきをさぐる鈴スズ響く
遊女と文字文字はえぬ墓墓〜
高足踏タカし〜雪乃〜
よそ乃棚くふくれ店係不
妻メ子れ店を守く角人師
徒イ才ト婦メ丈ラ乃ち〜每八朔
丸 賦 山 林 水 丸 賦 山

ひに言もよ〜西セイ收乃そなり
月乃輝カキく虹梁浪松林
阿ア洞ナ梨武有花乃〜
真マを凡マ乃つ〜
高乃日タカの〜
言コトと文フミとよのひヒ曜ヨウ乳チ
と白く折音よハ〜
又隙マ〜
水 丸 賦 山 林 水 丸 賦 山

元禄四年未年六月廿三日

但丹

宗丹

杉凡を蟬とひひくそく

と久も在と掃椽乃とひろ

水漏を器此刻と河三

曆作り、曙乃と在

月新り麻姑袴の皺の

三束うり流乃小カさ

只丸

好春

丹

丸

丸

口門次推も鼓も焔乃丸 丹

雨乃やりにゆらとされ丸 丸

人つまぬ犬と秋の文きよ 丸

ゆきに神の歸帰と刻き 丹

総角や苜蓿銀吉丸と丸 丸

水カキの早カキ乃乃に地 丸

まゆも客今日と隙と丸 丹

らカキも客今日と隙と丸 丹

合利乃分付 丸

もとく馬乳^{サイ}第一^ニ布^ニ上^ニま^ニれ^ルぬ
 りぬやう事^ニま^ニる^ル英^ニ乃^ニ月^ニ丹^ニ
 心^ニ強^ニ深^ニ谷^ニ之^ニ然^ニ乃^ニ蘇^ニら^ニら^ニ丸^ニ
 若^ニく^ニ其^ニ之^ニ何^ニと^ニ祈^ニら^ニる^ル 枯^ニ管^ニ之^ニ
 之^ニあ^ニさ^ニれ^ル 涸^ニ穴^ニあ^ニき^ニし^ニ字^ニ氷^ニ丹^ニ
 う^ニあ^ニく^ニし^ニく^ニ旅^ニ乃^ニ毎^ニ愈^ニ丸^ニ
 以^ニ社^ニ之^ニ芻^ニと^ニわ^ニく^ニま^ニて^ニ術^ニの^ニり^ニと^ニ
 地^ニく^ニな^ニく^ニま^ニる^ニ乃^ニ系^ニら^ニつ^ニと^ニ丹^ニ

汗^ニ止^ニ、被^{カフキ}く^ニも^ニつ^ニて^ニ丹^ニ止^ニん^ニ 全^ニ
 も^ニろ^ニや^ニ六^ニ中^ニよ^ニし^ニの^ニ音^ニの^ニ的^ニ 茲^ニ市^ニ
 朝^ニ毎^ニ乃^ニ合^ニ子^ニふ^ニあ^ニぬ^ニ信^ニ流^ニ蓋^ニ 丸^ニ
 忘^ニより^ニま^ニる^ニ所^ニ皆^ニあ^ニら^ニず^ニめ^ニ 全^ニ
 志^ニの^ニ子^ニ科^ニ志^ニの^ニち^ニぬ^ニ卓^ニを^ニ端^ニ枯^ニし^ニ 丹^ニ
 せ^ニ口^ニれ^ニ招^ニき^ニし^ニら^ニり^ニと^ニさ^ニよ^ニ 全^ニ
 夕^ニ立^ニ乃^ニ次^ニ平^ニ側^ニの^ニ具^ニ照^ニり^ニて^ニ 丸^ニ
 本^ニ屋^ニの^ニ極^ニら^ニん^ニ庭^ニの^ニ捧^ニし^ニ 杓^ニ 全^ニ

新しき志のひくくや坊らるる
 明もしきれてもみ代志きの
 讀書りなぬも物りかほ
 ニつかき〇く背原子依 采
 定家乃美れま行ゆく
 日次ほとまき姥川の菊
 舟 丸 市 采

元禄四末より六月廿日

圓依

這々女乃里れ名はるる礎
 葡萄の棚うひららん家
 飼鳥れ月もくく目と縁く
 此とらくくお海家蚊の声
 讀く色款虫打趣は夕暮る
 本家乙約乃園居まへ申
 丸 采 雪 坊方 呂丸 丸

之あふれけりかろゆ猶乃はあま
 鮫乃えいまう一巻早れあ
 馬あ夜ふ里志川いもさうま
 矢^又の御音さ日月の落方
 輿早れ一人をさの舟七
 廣葉ふいさかゆる索麩
 照日さかろく破れ作り庭
 こを樂り眠 猿大丸

何更け珠をふ音乃竹生鳴
 之ろ子捨ぬ四十二子
 酒吞ん野伏の村矢舟を
 院乃君り 硯まを
 にも咲か松も藤のこい
 柳もた人あまを石
 方 方 丸 作 方

独吟

久富

目より流るる水乃木乃や聲の
垣よりゆくげは凌霄乃らん
朧の月ありて寫織子と
振るる花の枝の新酒
秋の雨乃のききる中
清あやみ申に細るる草

一ひれ薄礼ま 髭髭
三不糸油乃娘 若元
徒しきとるよと恋と難而
栢とりとるひ神れい
柴口鼻くひとき帰れ米袋
仙洞様乃しうり ちる
其心前打しと伝乃 大鼓
二艘くくむ名月乃船

新造の宮に捧げ白幣
 去年一倍の里に荷
 公事の掛山半分の心
 五日方課只人の児
 又橋の流をゆる温
 同病の中は癩病
 縁付をゆるやほと整切
 付似し外馬子
 子

ら

如くも敵を柄の
 ねとねとろ並木をなま
 雪隠乃忘る日月の
 何の濯声
 ゆるに
 始乃地震をぬ人
 曾孫と雲孫を持
 日撰し
 日撰し

大木乃松と目^當毎^言よりる^言海^言
女子傍革乃^言と^言越^言び^言き^言
子^言申^言と^言よ^言く^言も^言似^言き^言さ^言る^言み^言の^言所^言
情^言の^言名^言乃^言庶^言乃^言ち^言張^言
一^言梅^言心^言の^言聖^照日^言れ^言る^言に^言
ま^言く^言と^言寐^言と^言ゆ^言ま^言く^言も^言乃^言晴^言り

跋

黄門定家郷の松と杉とを友人の
一^言き^言ぬ^言の^言檜^言と^言ち^言り^言分^言行^言は^言り^言
禮^言の^言も^言母^言の^言ま^言や^言萬^言本^言乃^言中^言小^言松^言
杉^言檜^言栢^言の^言樹^言名^言長^言く^言や^言い^言と^言心^言檜^言を^言仙^言
灯^言の^言煉^言丹^言合^言潘^言の^言枝^言の^言風^言を^言さ^言る^言に^言
浴^言水^言入^言る^言も^言常^言盤^言流^言は^言ら^言る^言也^言
撰^言者^言只^言丸^言の^言裁^言断^言今^言乃^言友^言也^言此^言を^言

をいつそ神の東山乃雲のわらわ
麓に居たり尋の未だそかひ
辞りて是より松栢乃ち
加ル

之祿四乃

未秋持ま日

高か宿
千之

昭和十一年八月廿五日

有原為之助氏所宛

昭和十一年八月廿七日

